

♪ へきい……ぱたん♪

(扉がゆつくりと開き、閉じる音)

♪ じ、じじ……♪

(部屋を照らすローソクの音)

♪ しゅり……♪

(扉を背にし神に祈りを捧げていたが、音に振り返り鳴る修道服の音)

リリウ

「あつ……い、いらつしやいませ！」

お、お待ちしております……たつ！」

♪ ぎし……♪

(男が一步近づき、距離が縮まる音)

リリウ

「……あう。

そんなにまじまじ近づいて見られると……は、恥ずかしくなってしまいます。

ど、どうでしよう？ 一応、水浴びをして身を清めてきたのですが、変じやありませんか？

って、同じ服を着ていたら分かりませんよね！ あは、あはは！

変な事を言つてしまつて申し訳ありません……」

リリウ

「えつ？ ……髪、朝より整つてます、か？」

あはっ、ええ！ 髮も、しつかり浸して……少しだけ香りもつけてきましたので、はい！

えへへ、ちゃんと分かつて頂けると、嬉しいものですね♪

ふふ、宜しければ触りますか？ どうぞ、手に触れてみて下さい……貴方のために、整えた髪ですので」

♪ さわ……♪

(髪に触れる音)

リリウ

「んつ♪ ふふつ……如何ですか？」

しつかり拭いたつもりですが、まだ少し湿っていたりしませんか？」

シスター仲間から借りた花の……何の花かは知らないのですが、その花の香水を付けてきたきたので少しだけ甘い匂いがするかと思うのですが……如何でしようか？」

この香りを気に入つて頂けたのなら良いのですが……。

えへへ、何せ何に使うつもりかと訊がられてしまつたものでして……分かつて頂けなかつたら、少し悲しくなつてしまいそうで」

♪さわ……♪
(再び髪を撫でる音)

リリウ
「んんっ……ふふ♪

あつ……喜んで頂けているなら嬉しいですが、いつまでも撫でられてばかりだと話が進みませんね！
決して褒めて頂けるのが嫌という訳ではないのですが！ むしろ、嬉しいのですが！ その……」

♪しゅり……♪

(身を離す音)

リリウ

「貴方の、懺悔が聞けませんので！

……今日は、そのためにいらしたんですもの、ね？」

リリウ

「はい……では、始めましょう」

♪しゅるり……♪

(両手を組み、祈りのポーズをとる音)

リリウ

「今日は、どのような罪の告白をなさいに来たのですか？

神は救いを求める者をお見捨てにはなりません。さあどうぞ……緊張なさらず、言葉にしてみて下さい」

リリウ

「…………（吐息）。

あれ？ あの、えっと……つ、罪の告白は、されないので……か？」

リリウ

「えっ？ あれ、え……えっ！？ あの、えと、貴方……罪の告白を、懺悔をされに来たのですよね！？」

あれ、あれあれ……わ、私……何か、勘違いしていましたか？ あれ！？」

リリウ

「えっ、と……淫らな行為をしたいだけって、あの……あう。

その、そう言われてしまうと、私としてはその……困ってしまうと言いますか。
あの、懺悔をお聞きするのが私の……教会の役目ですので、その、あの……うー！」

♪しゅり……♪

(困ったリリウが、服を揺らしどうしようかと悩む音)

リリウ

「……本当に、罪の告白は何も御座いませんか？　その、懺悔をお聞きしないと話が始まらないというか。貴方の罪を、私は許させて頂きたいというか……あの、あうーっ！　その、何かありませんか！？　例えば……そう！？」

リリウ

「人には侵してはならないとされる、7つの大罪と呼ばれるものがあります！　簡単に言えば、傲慢、憤怒（ふんど）、色欲、暴食、強欲、怠惰、嫉妬……と呼ばれるものでして。ですからそういうた……そう、先ほど仰られていたような！」

△しゅるう……！　……くちゅ▼

（修道服の裾をまくる音、同時にぴちやりと響く湿った音）

リリウ

「……か、神に仕える僕（しもべ）に対しても劣情を抱いてしまった、など。そんな傲慢、とでもいうべき罪に……覚えは、御座いませんか？」

△ぴちや……▼

（見せつける下着の中、濡れる水音）

リリウ

「もし……そのような罪に覚えがあるようであれば、私は……“懺悔”を、お聞きできます……よ？　言葉だけでも良いですし……言葉で足りないのならば私のこの体で……貴方の罪を、しっかりと……お聞き致します」

△しゅる……くちゅ▼

（近づく音、水音）

リリウ

「意味はお分かりになります……か？　実は私の体も、貴方が私に懺悔をお望みになられていると知つてから……罪を許したいと、何だか中から蜜が……溢れそうになつてているといいますか。……ふふつ♪　これも、別のシスターからお借りしたものなんですが。

懺悔をよりしっかりと聞くための衣装としてこのような……少し恥ずかしいのですが、その……恥ずかしくなつてしまふ場所が見えている下着も……頑張って履いてみたり……してまして」

△しゅる……▼

（更に近づき、顔を耳元に寄せる音）

リリウ

「……気に入つて、頂けましたでしようか？　それなら、恥ずかしく思いながらも、こうして準備をして良かつたと思えるのですが……。もし、この姿に……罪を、傲慢さを感じて頂けたのなら」

リリウ

「どうか……首を、縦に……振って下さい。
はあー、ふうー……そうして頂けたのなら、私……初めてになりますけど。
頑張って、貴方の懺悔……お聞き、しますので」

✧しゅる……✧

(うなづく音)

リリウ

「あつ……あはつ♪
はい、ありがとうございます♪ ふふ♪
しつかり、ぜーんぶ……貴方の罪を、確かめて……許させて、頂きますので！
はい♪」